



# 伊勢志摩国立公園ビジョン 解説ハンドブック



伊勢志摩国立公園地域協議会  
令和7年3月

## 「つなげるわ、ひろげるわ、 未来につなごう伊勢志摩国立公園」

「私（個性）」「輪（つながり）」「和（調和）」の三つの「わ」が重なり合い、新たな未来を創る姿を表現しました。

### 1. 私が輝く

住む人も訪れる人も、一人ひとりが輝き、周囲を尊重しながら挑戦し成長する国立公園を目指します。「私らしさ」が調和の中で最大限に発揮される国立公園を目指します。

### 2. 人と自然の輪がつながる

人々をつなぎ、人と自然が共に生きる喜びの「輪」を広げます。自然への敬意を忘れず、共存する意識を高めます。多様な人と自然の交流により希望ある未来を創造する国立公園を目指します。

### 3. 地域の誇りと和が育まれる

受け継がれる文化、自然、歴史を大切に守り、地域一体となって未来へと伝えます。「変わらずに、変わり続ける」精神を基盤に、「心がかえりたい」国立公園を目指します。

#### ～ 検討メンバーの想い～

「わが」には「私の」という意味があります。そこから、「私」だけでなく他の人も尊重し、「わが」が2つつながって共に輝く「わがわが」にしようという希望と覚悟の気持ちを、このビジョンに込めました。



「伊勢志摩の未来を見据え、強い信念を持って取り組む」「伊勢志摩の将来を担う」方々を検討メンバーに迎え、3回のワークショップによる熱い議論、検討の末、ビジョンを作成しました。

## ■はじめに

- ・伊勢志摩国立公園は、表情豊かな海岸地形と常緑広葉樹の森、そして、自然と人がともに生きる文化が魅力の、志摩半島一帯に広がる国立公園です。
- ・我が国において13番目、戦後すぐに国立公園に指定され、2026年（令和8年）には指定80周年を迎えます。
- ・そこで、指定90・100周年を見据え、伊勢志摩の未来を考え各分野で取組を行っており、伊勢志摩の10年・20年後を担う方々に検討に加わっていただき、伊勢志摩国立公園の目指すべきビジョンを策定しました。
- ・このハンドブックは、「伊勢志摩国立公園ビジョン」を、当協議会関係者はもとより、地域の方々、訪れるの方々を含め伊勢志摩国立公園に関わる全ての方々に伝えるためのものです。
- ・ハンドブックには検討の内容も記録として掲載しました。検討の内容を多くの方と共有することで、よりビジョンの背後にある考えや思いが伝わると考えたからです。
- ・今後、当協議会ではこの「伊勢志摩国立公園ビジョン」を実現するための行動計画（伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム2030）を策定し、取組を展開していきます。
- ・伊勢志摩国立公園に関わる全ての方々が、私たちとともにこの「伊勢志摩国立公園ビジョン」の実現を目指して行動することを期待しています。

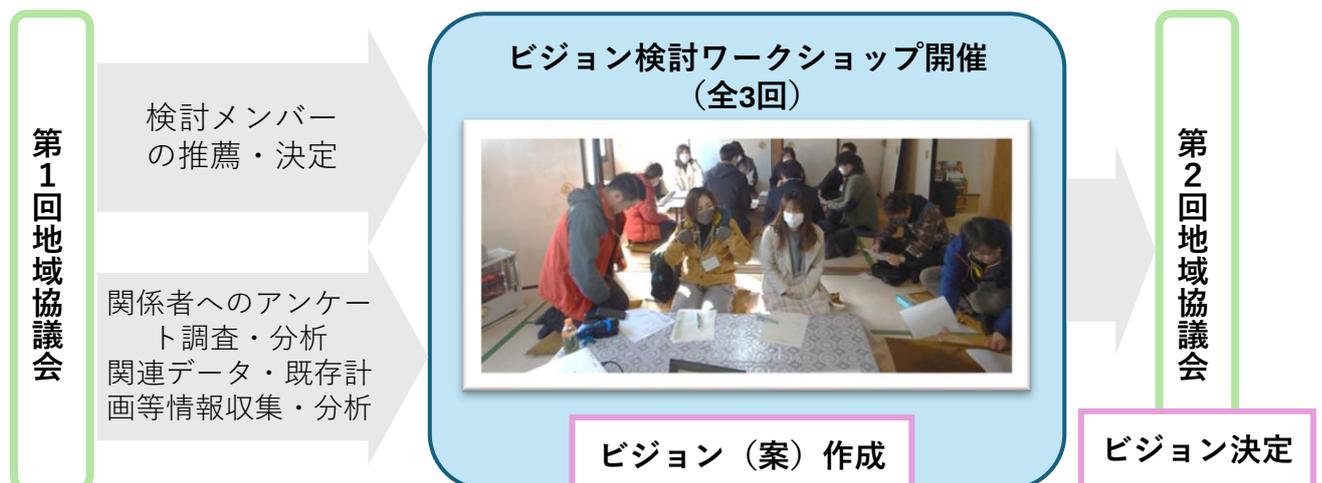
## ■伊勢志摩国立公園ビジョンとは

- ・伊勢志摩国立公園の10年後、20年後の将来像。
- ・目指すべきゴール。未来のあるべき姿。
- ・伊勢志摩国立公園の方向性を決定づけるもの。
- ・具体的には、どのような状態を実現したいのか、どんな価値を提供したいのかを明確にするもの。

→ **伊勢志摩国立公園に関わる全ての人が、共通の目標に向かって進むための指針、意思決定の基盤となる**

## ■伊勢志摩国立公園ビジョン検討・作成のプロセス

- ・令和6年度第1回伊勢志摩国立公園地域協議会において、伊勢志摩国立公園ビジョン策定方針や現状把握調査を行うことを決定しました。
- ・ビジョン検討の前に現状把握のためのアンケート調査等を行いました。
- ・地域協議会構成員・アドバイザーから推薦いただき、10年後20年後に伊勢志摩をひっぱる若者たちに検討に加わっていただき、ビジョン案をとりまとめました。
- ・第2回伊勢志摩国立公園地域協議会において伊勢志摩国立公園ビジョンを策定しました。



# 伊勢志摩国立公園ビジョン検討ワークショップ

第1回：2024年12月20日（金）13：00～16：30 神岳テラス



参加人数

検討メンバー 19名  
講師・事務局 8名

計27名

## 第1回ワークショップの主な内容

- 趣旨説明
- 講演、講話（伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会、鳥羽市）
- ワークショップ「私の人生と伊勢志摩の自然文化との関わりを話そう！」
- 国立公園について概要説明

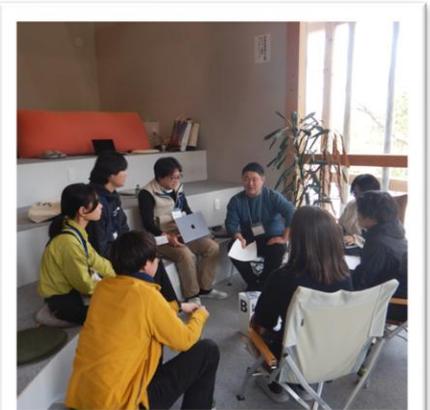
## memo



◀ワークショップの前に、アイスブレイクを兼ね、参加者が運営するキッチンカーで調理された料理を楽しむランチ会が開かれました。伊勢志摩の食材をふんだんに使ったパエリアなどが振る舞われ、皆さん美味しくいただきながら会話にも花が咲きました。



▲会場の神岳テラス



▲3班に分かれてワークショップ



▲国立公園の概要説明

# 【第1回】伊勢志摩国立公園ビジョン検討ワークショップ 「私の人生と伊勢志摩の自然文化との関わりを話そう！」まとめ

## A班

### ◆伊勢志摩の自然は生活そのもの

- ・96%が民有地で自然豊かな地域である。
- ・実家の通年行事を受け継ぎ体験したことで伝統文化や風習が自然と密接に関わっていると感じた。
- ・国立公園内に人が居住していることが伊勢志摩の特徴としてPRすべきである。

### ◆悩んだり疲れると海、山、夕日でリセットされ、シンプルな気持ちに

- ・悩んだ時海に行き夕日を眺めていた。
- ・海を見ることで自分をリセットすることがある。
- ・悩んだ時に神宮（神様）にお参りに行く感覚で、海や夕日を見に行く。

### ◆特別保護地区が神域（神様が守ってる）

- ・民有地の多い国立公園だからこそひとつにまとめるのではなく、住民から多くの伝えたいメッセージを集めると良いのでは。
- ・伊勢志摩で言うわがわが、である。
- ・伝えたいことを言うのはいいが、人の伝えたいことも否定してはいけない。

### ◆毎日みても飽きない自然

- ・地元の海は可もなく不可も無いが言葉で表現できない何かを感じる。
- ・相賀浦二ツ浜を訪れ癒されて帰るということを繰り返していた。
- ・地元で転職して感じたことは、この海や自然は毎日見ても慣れることなく美しいと感じることが出来るということであった。
- ・伊勢志摩は時々によって景色が変わるので地元民でも飽きることはない。
- ・お客さんを案内する時、昨日と今日の天候の違いをわかって欲しくなる時がある。

### ◆イメージを無理に統一しなくても「わがわが」で伝える

- ・伊勢志摩国立公園は自然の美しさだけでなく畏怖の念を抱くことができる部分がアピールポイントである。
- ・人間の畏怖の念で神を守っているとも言える。

## B班

### ◆当たり前だけど当たり前じゃない

- ・「続けること」は大事なテーマだ。自分達がしてもらってきた事を次の世代へと受け継いでいきたい。
- ・地元の外に出て、伊勢志摩の生活に触れたことをきっかけに、地元（他県）にもこういった自然があったということを感じることができた。
- ・伊勢志摩にいながら現職にくるまで、アワビが少なくなっていることも知らなかった。
- ・当たり前日常を送る中で環境が変わってきていることを実感している。
- ・「作っていない自然」「住んでいた人達が作ったありのままの自然」が離島にはある。
- ・海の博物館では、できるだけありのままの価値を見せていると感じる。漁具も綺麗な物だけではなく、壊れている物もそのままの形で見るができる。漁師さんの凄さ、仕事の大変さに気付かされる。

### ◆生きる感覚

- ・神島で危険な場所を歩いている時、海が綺麗や、太陽や地平線が綺麗ではなく、人から「生き物」に戻り、生きたい、という本能を掻き立てられたことを覚えている。
- ・伊勢志摩には、海や山があり、畑もある。「人間と自然が共生している場所」が全てあり、自然に支えられて生きていくと感じられる。
- ・元気でもとて協力的な老人が多い印象だ。この良い老人の方々には私達やその親が育てられ、恵まれていると感じる。
- ・子どもの頃山に登った時、その山道は平地と違い危ないところもあり、怖い経験だったが、「自然の中を歩いている」という感覚が良かった。

### ◆自然は「かたりば」である

- ・磯場で「磯もん」を取り、塩茹でしたものをおやつとして、ミルクと一緒に食べていた。そういった日常の生活があったため、南伊勢では、磯が身近なものだ。
- ・自然は、気軽に行ける身近でフレンドリーなものだった。
- ・つららを舐めて水分補給する保育園が伊勢志摩には残っている。
- ・「鳥羽の風は生まれたての風だ」と言われた。
- ・二見浦海岸は風を感じながら友人と朝まで語るほど落ち着く場所だ。

## C班

### ◆海

- ・移住した理由は「海に憧れていたこと」「地域のひととの繋がりを感じられる場所に住みたい」ということで、理想の生活が手に入った。
- ・「海のなかに入る」といことが当たり前で、ずっと海は生活の中にあるような暮らしをしてきた。
- ・地元サーファーたちは海から上がったら堤防沿いにあるゴミ箱に捨てたゴミをいれるという習慣がある。そういったところから、自然と繋がっていたのではないかと思う。
- ・日本海側は12月に入ると日光が見えなくなるので、伊勢志摩では毎日晴れて日光浴ができるのがとてもうれしい。
- ・答志島は、8月中は「お盆」という考え方で、お盆に海で泳いではいけないという迷信がある。
- ・子どもの頃夏休みには、水着で友達の家に行きそのまま浜に行ったり、山の中に勝手に入って遊んだり、浜で花火などをして遊んでいた。
- ・伊勢では海はすぐに行ける距離ではない。地元の人は五十鈴川で泳いでいる。

### ◆「変わらないものは変わらない」「変わるものは変わる」

- ・答志島のお祭りの雰囲気も良かったが、大間の浜から見る景色が胸に残った。
- ・答志島の魅力的なところは沢山あるが、何も知らずに行くこととただの漁村風景の島である。
- ・国立公園だということは理解しなくていいが、この地域と自然に価値があることは知ってもらいたい。
- ・海と関わることや海を守ることに深い信念を感じて行っているわけではなく、行動が習慣化して自然とやっていること。
- ・伊勢神宮では宇治橋を渡ると、広大な自然に囲まれており変わらぬ景色が広がっている。
- ・神宮があるからこそ自然が守られているというのももちろんだが、自然を守ることによって人々の生活が守られているというのを始めて知った。
- ・神宮ではお祭りの内容や建物の形など、本質部分は変えない。
- ・伊勢志摩は良くも悪くも変わってない。嫌だったところがより研ぎ澄まされて嫌になっている部分も。

# 伊勢志摩国立公園ビジョン検討ワークショップ

第2回：2025年1月9日（木）9：30～12：00 青峰山 正福寺



▲個人ワーク



▲書き出した言葉の共有

## 第2回ワークショップの主な内容

- アイスブレイク
- 個人ワーク  
（第1回WSふりかえり・ビジョンに盛り込みたいことばを書き出す）
- 全体ワーク（書き出したことばとその理由・思いを共有）

参加人数

検討メンバー 19名  
講師・事務局 6名

計25名

### memo

#### ザブーン

海に真横に住んでいる、伊勢志摩は海から切り離せない

#### シーン

自然の中は静かな空間

#### ツヤツヤ

魚がツヤツヤ

#### ワクワク

観光客わくわく

#### サー

水面が風ぐ様子

#### ビュービュー、びゅーびゅー

神風、伊勢は寒いと北海道の方が言っていた、伊勢の寒さは特殊、海からの風重たい、潮風浜風が山まで届く

#### ヤーヤー

人のあったかさ

#### キラキラ、きらきら

伊勢神宮、輝きや温かみ、太陽の光、海に反射、初めて見た海の水面の反射、太陽も山も海もきらきらしている、地元に戻ってきて伊勢志摩の魅力再発見

#### ポカポカ

温かい感じ、心が温かくなるような

#### ザワザワ、ワイワイ

伊勢神宮や人しゃべっているの様子

#### ピカッ

太陽の反射、伊勢志摩パールロードなど運転していると

#### サンサン

おひさまさんさん、海が印象的、海の反射

◀伊勢志摩をオノマトペで表現するアイスブレイクを行いました。早朝で寒かった会場もアイスブレイクを皮切りに、熱い思いを語る、参加者の熱気で暖まりました。



▲ふりかえり・チェックアウト

### ◆ 「つながり」（人、自然、文化との繋がり、等）

- ・伊勢志摩に何回来てても雰囲気が変わらない。自然が豊かで変わらない安心感がある。
- ・伊勢志摩には自然のなかで生まれた文化が多くあり、それを感じてもらうことが良いキーワードになる。感じる、聞く、見る、触れる、五感で体感するのが良い。
- ・豊かな自然はご先祖さまの恩恵である。それを我々は受けるだけでなく繋ぐ役目を意識する。
- ・人と自然が共生している場所であることも魅力。これからも魅力を発信して次世代に伝えることが大事である。
- ・人が続けてきた伊勢志摩を、意識をもって更に持続する必要がある。
- ・自然への敬意。伊勢志摩地域の方は自然を舐めてはいけなくて身をもって知っている。親や上の世代から受け継がれているので、自然への敬意をこれからも持ってほしい。
- ・人の繋がり、自然との繋がり、未来と過去の時間の繋がり。意識して自発的に繋げていく。過去からもらったものを未来に繋ぐ継承こそ、今を生きている自分達の役割である。今だけで終わらせないという意識を持つことが大事である。
- ・自然文化歴史は伊勢志摩らしさを醸し出す大事な要素であると思う。自然はもちろんだが文化歴史が自然に合わさることで自然への敬意が生まれる。今後も大事にしたいと考える。
- ・昔も今も海女さんがいる、これからも居て欲しい。「継承」を国立公園全体のビジョンとしたいと考える。
- ・鳥羽、志摩など漁師町の景観。豊かな海や山の資源、伊勢工ピヤアワビ、トロサワラなどを維持する。
- ・昔から変わらないもの、人が生活するなかで、暮らしのなかでつくったもの。それを昔の人が今に受け継いできた。
- ・伊勢志摩の食は生きるだけでなく、食べた人を幸せにする。それが自慢である。次の世代に繋いで残していく取組を入れたい。

### ◆ 「決断」（決断する世代、間の世代、等）

- ・続けるのか辞めるのか等、何かを決断するタイミングの世代が多い。頑張る為には未来に繋げる人がいないと頑張れない。子供たちがここに住みたい、働きたいと思える地域であってほしい。
- ・伊勢志摩国立公園にたくさん来てもらいたいありがたいが、過去にはレジャー開発が進み、伊勢志摩の景観が失われ、国立公園指定取り消しの危機があった。
- ・過去からの学びで転換点である。オーバーツーリズムで来てもらうのは有難いが、利用するだけでは搾取ではないか。利用ではなく国立公園の自然に教えて貰うと思っている。
- ・私達は自然を大事にしてきた80~90代の先人から話を聞くこともできる、次の世代に伝える中間地点にたっている。人の営み、伝承していくことも私達の使命である。
- ・責任を持って利用の管理をして大切に使うべきである。インバウンドなど多くの方が来るなかでより良い活用を考え、自然への敬意をもって責任ある管理が必要である。
- ・いつまでも伊勢志摩国立公園であり続けるには私達が決断する時期にきている。
- ・決断のサイクルのなかでそのタイミングがきている。そこから逃げず、次世代の為にも決断して守っていききたい。
- ・決断する世代と聞いて覚悟がみられた。自然が変わるなかで決断することもある、その覚悟があり嬉しい。



### ◆ 「変わらずに変わり続けよう」（心のふるさと、誇り、自慢できる、等）

- ・日本人の心のふるさと。精神文化は伊勢志摩ならではである。原風景が残され、多くの方が癒しを感じてリフレッシュして帰る。
- ・昔は海藻だらけだった海底がサンゴだらけのように、変わっていくものに対応することが必要である。
- ・伊勢志摩に住む多くが、自分達が国立公園に住んでいる意識が希薄である。地元で誇りを持ち、それを自慢できる伊勢志摩であってほしい。
- ・伊勢志摩に来てくれる人、住んでいる人、人と自然には境界線があることを知りながら、自然に生かされて、自然に教えて貰う。自然は有限にあるものではない。
- ・変わらずに変わり続けよう。自分の楽曲の歌詞で、伊勢志摩に籠り歌を作る。
- ・社会や環境が変わり適応することも大切だが、芯の部分は変わらないと表現している。伊勢志摩も商売、宿などそれぞれの市町村イメージがあり、その良さを自分らしさとしてひとつの方向に向かう取組ができれば良い。
- ・「わがわが」の良さをひとつの方向に向けて進めることが大切である。各地域の文化歴史を大切に、変わるものは変わり続ける。
- ・ありのままの価値である風景や海の幸、海女さんを将来も大事にすることが大事。新しいものや商品を作り上げるなかで、今の価値を保つのはエネルギーがいるが将来に残したい。
- ・自然との共生、自然と生きていくのは当たり前かもしれないが、海に潜る、山に狩りにでる、危険を伴い生きていく。変わらない安心がある、日本人の心のふるさとである。それを伝承して次世代にも受け継ぐ必要がある。
- ・県外に出ている人が多いが、いつでも戻れる場所として心において欲しい。
- ・10年先に伊勢志摩と関わって良かったと、伊勢志摩を誇りに思っていて欲しい。
- ・取り込む。外部からの観光客によって外から気づかされることがあるので取り込みつつ、当たり前を維持しながら新しい要素を入れて前に進むことが必要である。

# 伊勢志摩国立公園ビジョン検討ワークショップ

第3回：2025年1月21日（火）14：30～16：00 三重県志摩庁舎



▲ビジョン案の説明



▲ビジョン案への意見や提案

参加人数

検討メンバー 21名  
講師・事務局 5名

計26名

## 第3回ワークショップの主な内容

- 第1～2回ワークショップの振り返り
- 個人ワーク（ビジョン案への意見や提案を書く）
- 全体ワーク（書き出した意見や提案、その理由・思いを共有する）

## MEMO

伊勢志摩国立公園ビジョン（案）  
※伊勢志摩国立公園の10年後、20年後の将来像

### <大ビジョン>

A案：「つながるわ、ひろがるわ、未来へつなぐ伊勢志摩」

B案：「つながるわ、ひろがるわ、わたしらしさが輝く伊勢志摩」

<小ビジョン>大ビジョンの詳細説明&ビジョンとアクションとをつなぐもの

1. 一人ひとりが輝く（我が）
2. 人と人、人と自然がつながる（輪が）
3. 地域の誇り（自慢価値）と一体感（和が）

◀第1～2回ワークショップの結果を踏まえ、コアメンバーと事務局でビジョンの素案を作成しました。第3回ワークショップではこの案をもとにワークを行い、ビジョン完成にむけて討論を行いました。大ビジョン、小ビジョン、それぞれに参加者から積極的に意見や提案がなされました。

# 【第3回】伊勢志摩国立公園ビジョン検討ワークショップ 「ビジョン案への意見や提案／その理由や想いを共有！」まとめ

## 大ビジョンの案について

### ◆A案「つながるわ、ひろがるわ、未来へつなく伊勢志摩」へのコメント

- A案の説明に三つの「わ」があるのに、ビジョンでは「つながるわ」と「ひろがるわ」の二つしかないのがバランスが悪いのでは。三つ目の「わ」があればと感じた。
- 「わ」の順番も「私」、「輪」、「和」のように「わ」の意味合いが大きくなるようにすればいいのではないか。
- 「つなく」を「つなげる」や「つなごう」など主体的にしてもいいのではないか。
- 国立公園のビジョンなので、ビジョンの最後の「伊勢志摩」を「伊勢志摩国立公園」と言い切ってよいのではないか。
- 「つなく」というキーワードをビジョンに入れたかったため、今回の案に含まれていて良かった。
- A案は非常に分かりやすく、説明しやすい。
- A案で「つながる」が続いているので、「挑戦」等の言葉に置き換えられたらいいのではないか。
- 「つながるわ」と「未来につなげる」が重なるので、「未来へつづく」のような表現もいいのでは。
- 「つながる」が重ねて使われるので、小ビジョンですでに「育む」も当てはめる候補としてはいいのではないか。
- 前回のWSや、小ビジョンの「人と人」や「人と自然の交流」といった言葉から「継承」がテーマになっていると思ったので未来につなくA案を選んだ。

### ◆B案「つながるわ、ひろがるわ、わたらしさが輝く伊勢志摩」へのコメント

- B案の「わ」を漢字に当てはめて、「つながる輪、ひろがる和、私らしさが織り成す伊勢志摩国立公園」と考えた。
- B案の「わたらしさが輝く」も「未来につなく」につながってくるのではないか。

### ◆その他コメント

- ビジョンは「わが、つなげ、伊勢志摩」だと読みやすいのでは。
- A案とB案のどちらがいいかは決められなかった。
- 「わがわが」という単語をこのWSで初めて知った。面白いと思うので、初めて見た人もわかるように「わがわが」についての説明をいれてはどうか。

## 小ビジョンの案について

- 小ビジョンの「わが」を活かしたほうがいいのでは。
- 小ビジョンで尊重と敬意といった言葉がでてくるが、人に対する尊重と自然に対する敬意の意味合いについて再度考える必要がある。
- 「心が帰りたい」のキーワードの評価が良かった。
- 小ビジョンで「周囲を尊重しながら」とあるが、尊重だけでなく、他のワードも入れたい。他の人の意見を尊重するだけでは前に進まないのではないか。
- 何かをするには「挑戦」も必要ではないかといった意見も出た。
- 小ビジョンのジャンル分けは良いと思う。
- 「挑戦」といった言葉があったが、小ビジョンの3に「変わり続ける」要素が少ないと思うので、「挑戦」や「ブラッシュアップ・磨き上げていく」といった要素があってもいいのではないか。
- 伊勢志摩国立公園のビジョンは人の営みを中心に考えていくのは良いが、人の営みには自然が不可欠であるので、美しい自然を守り続けようといったニュアンスが含まれていると嬉しい。
- 小ビジョンで1、2はしっくりきた。
- 小ビジョンの3は、「心が帰りたい」国立公園とあるので「安らげる」のような表現を小ビジョン3の見出しにつけてもいいのではないか。
- 小ビジョンの1の見出しで（我が）とあるが、（私が）のほうが周りを尊重しているように感じる。
- 伊勢志摩国立公園の特徴は民有地96%だと思うので、小ビジョンも「人」について最初から言及していいなと思った。



## ■伊勢志摩国立公園ビジョン検討メンバー概要

### ◆検討メンバー：25名

様々なお立場において「伊勢志摩の未来を考えて強い信念を持って取り組んでいる」「伊勢志摩の将来を担う」方々に検討メンバーに入っていただきました。

ご協力いただきありがとうございました。

メンバーは伊勢志摩国立公園協議会構成員・アドバイザーの皆様におすすめしていただいて決定いたしました。

### ◆検討メンバーの所属等概要

観光業、宿泊業、ガイド業、飲食業、  
まちづくり・地域づくり、  
シンガーソングライター、  
学生、DMO、ビジターセンター、行政



## ■伊勢志摩国立公園地域協議会概要

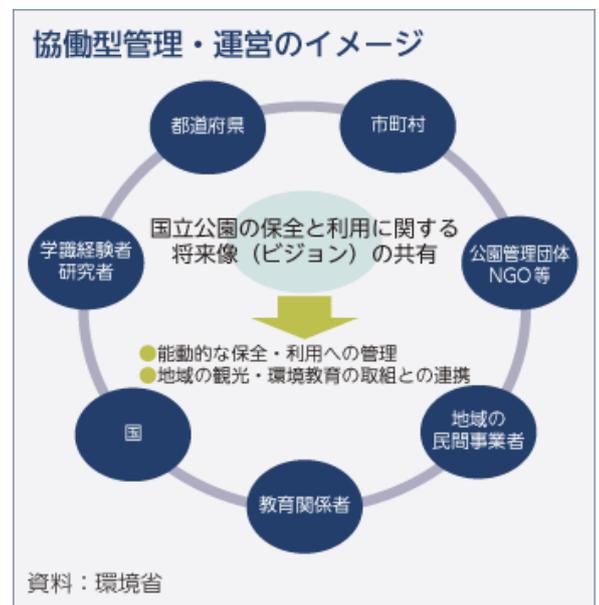
### ◆概要

伊勢志摩国立公園には多様な関係者がおり、様々な取組を実行するためには相互連携とそれぞれの主体的な取組が必要です。当協議会は、多様な関係者が丁寧に意思疎通を図り、さらなる連携強化を諮ることにより、地域一体となった国立公園プロジェクトを推進するため設置された協議会です。

### ◆構成員・アドバイザー

観光関係だけでなく、交通関係、自然や文化に関わる団体等幅広い事業者と関係行政団体が構成員となっている。

また、各分野のキーとなる団体・個人にアドバイザーになっていただき、各種取組みへの助言等のご協力をいただいている。

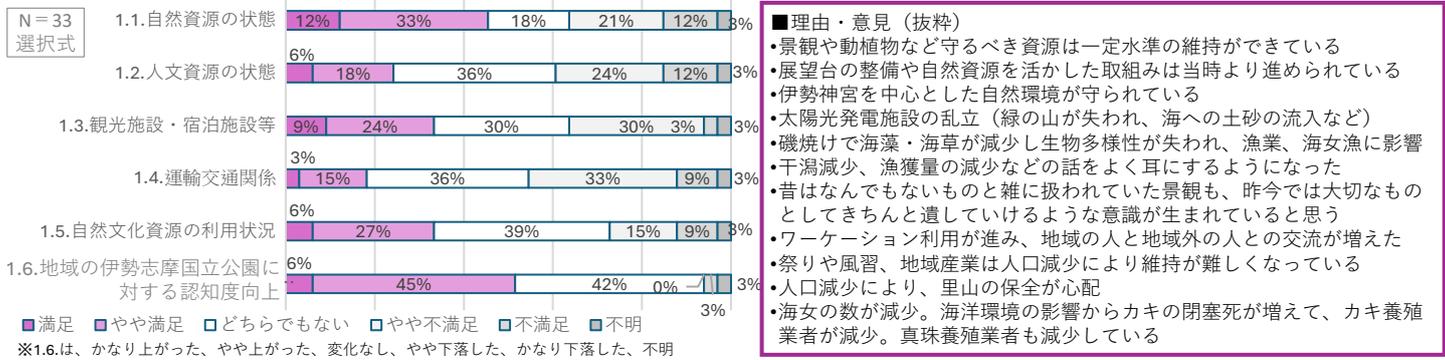


■伊勢志摩国立公園ビジョン検討のためのアンケート調査結果概要

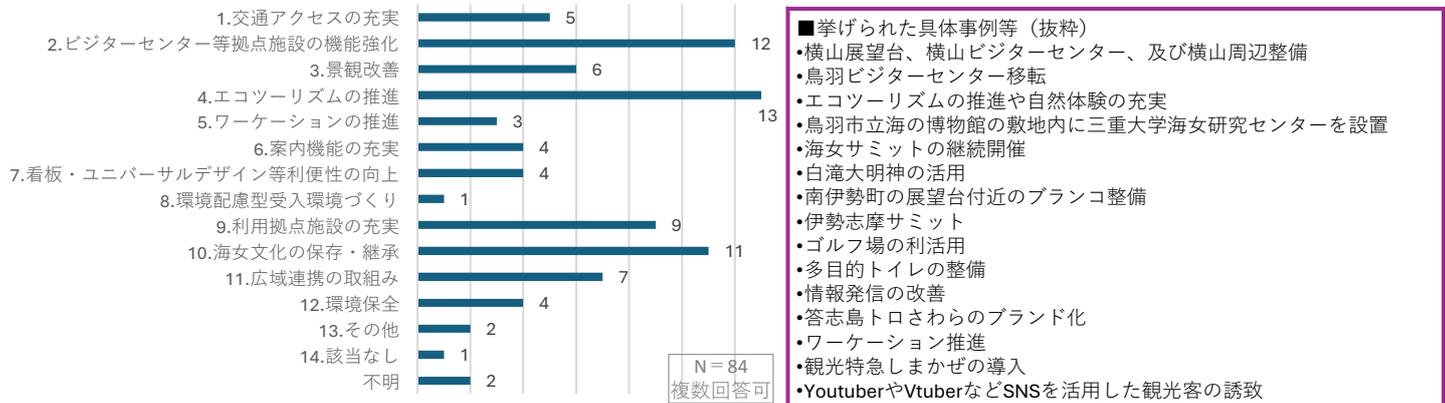
ビジョン検討に資するため、国立公園関係者の10～20年程度を振り返っての評価（現状の満足度）を明らかにし、ビジョンに盛り込むべき要素として国立公園関係者の思いを広く収集することを目的として、伊勢志摩国立公園地域協議会構成員及びアドバイザーの皆様を対象にアンケート調査を行いました。

【アンケート実施期間：令和6年8月21日～10月7日、回答数35件】

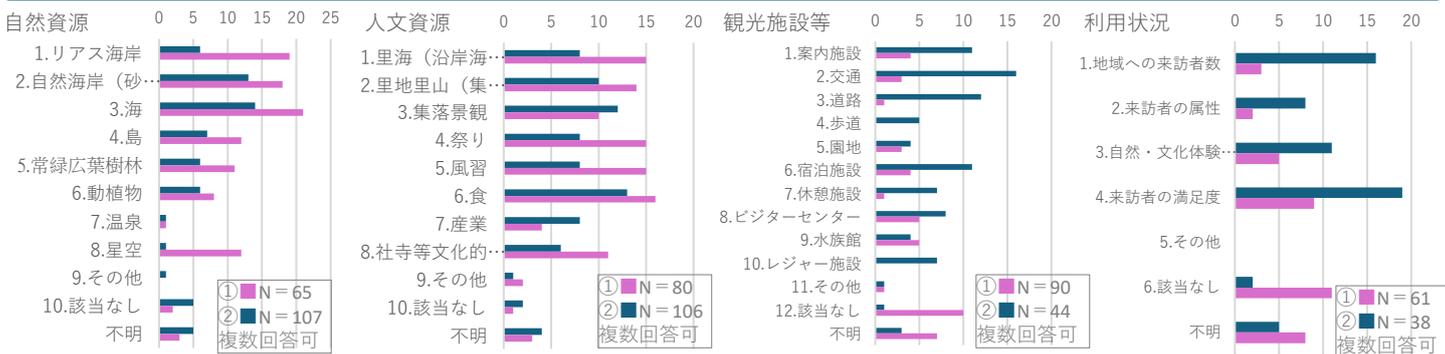
過去10～20年を振り返っての評価：伊勢志摩国立公園の現状の満足度



過去10～20年を振り返っての評価：良い結果が得られたと思う取組



10年後、20年後までに改善又は変化を期待する点①／変えたくない点または未来へ引き継ぎたいもの②



あなた自身又は、あなたの所属する組織が貢献可能なこと



## 伊勢志摩国立公園ビジョン 解説ハンドブック

発行日：令和7年3月28日

発行：伊勢志摩国立公園地域協議会

【事務局】三重県 農林水産部 みどり共生推進課 自然公園班  
環境省 中部地方環境事務所 国立公園課

【問合先】環境省中部地方環境事務所 伊勢志摩国立公園管理事務所

〒517-0501 志摩市阿児町鵜方3098-26 TEL0599-43-2210

写真提供：公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構